

# 理 事 会 議 事 録

日 時：1999年10月9日（土） 12時00分～13時00分  
場 所：九州大学六本松キャンパス新1号館 N123教室  
出席者：尾崎、家、小山、柴田、大石、立松、紀伊、  
吉川、上野、有本、沢、山岡、橋本、牧島  
出席者14名 欠席者 1名うち委任状1名

議事に先立ち、署名人を選出した  
議長：尾崎洋二  
署名人：柴田一成、大石雅寿

## 議事の経過及び結果

1. 前回（1999年7月10日）の理事会議事録が報告され、承認された。
2. 大石庶務理事より前回理事会以降の報告事項として、学会事務室が国立天文台すばる解析棟1Fに無事に引っ越したこと、科学研究費補助金審査員候補を選出し、日本学術振興会に推薦したことが報告された。
3. 1999年秋季年会について吉川年会理事より報告があった。講演数は509（キャンセル6件、代理講演4件）と過去最高である。またポストデッドライン論文は1報である。最新情報コーナーには3件掲示があった。記者会見は5社の参加があり、各紙に記事が掲載された。保育室利用者はのべ16名である。年会登録者は約770名、懇親会参加者は約260名でありいずれも過去最高を更新した。
4. 新入正会員の名簿が紹介され、9名全員の入会が承認された。
5. 改訂を進めている各委員会内規の改定案が大石庶務理事より提示され、説明があった。提示資料に基づいて、様々な視点から意見交換が行われた。特に天文教材委員会については小委員会として必要な都度設置するほうがよいのではないかとの意見が多かった。これらの意見を踏まえながら実務理事会等でさらに案を練り上げることとなった。
6. 2000年春季年会の準備状況について牧島理事より報告があった。4月3-5日が開催期間となる。セッション用の8会場は確保できているが広いポスター会場がまだ確保できていない。またその時に開催予定の「ジュニアセッション」の趣旨説明が吉川年会理事より行われた。これに関連して各自治体の教育委員会からの講演依頼などの受け入れ窓口を学会が行うべきではないかという点について意見交換が行われた。年会登録料に関して会員と非会員の間で差がないことについて議論が行われ、会員になるメリットができるように年会実行委員会で決めることとなった。また、天文月報に年会プログラムを掲載する作業時間が厳しいため別冊として発行してはどうかとの提案が上野理事よりあり、意見交換の上、年会実行委員長、月報理事、会計理事と相談のうえ予算的な問題がなければ別冊を発行することとした。
7. 学術交流費の収入が漸減しているが旅費補助申請が増えていることについて意見交換を行った。収入を増やすために様々な努力をすることが合意された。
8. その他
  - (1) 次回の理事会・評議員会の予定を以下のように決定した。  
理事会：2000年1月22日（土）  
評議員会：2000年1月29日（土）
  - (2) 独立行政法人化に関するアピールを出すため、尾崎理事長と池内了氏に原案作成を依頼し早急にアピールをまとめることとした。

